

三次元バーチャル空間により、関係者の合意形成をスピーディーに

～「BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)による「静岡地方法務局藤枝出張所」の設計説明～

平成24年6月22日
静岡営繕事務所

中部地方整備局営繕部および静岡営繕事務所では、BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)を、導入した場合の効果・課題についての整理・検証を目的に試行しています。

設計段階においては、BIMにより3次元データによる建物情報モデルを構築することで、設計内容の可視化に対する透明性や説明性が高まり、関係者間における意志決定が早くなるなどのメリットが期待できます。

今回は、平成26年6月22日(金)に静岡法務総合庁舎の会議室において、静岡地方法務局(3名)をはじめ、法務本省(2名)からも出席頂き、「静岡地方法務局藤枝出張所」の「基本設計」について、BIMによる三次元バーチャルモデルを活用して画面上でのウォークスルーによる設計プランの説明を行いました。

法務局の担当者からは、「図面ではなく、三次元の画像により、建物のイメージをつかむ事ができた。」との感想をいただいています。

今後は、施工段階でも、施設内サインの検討・確認、各種納まりの確認等に、BIMの活用を検討していく予定です。



那花広報戦略官によるBIMの説明



新聞社による報道(建設通信新聞)



説明会の開催風景



三次元バーチャルモデル(BIM)を活用した説明画像

